

## プロローグ

本稿のタイトルは奇異かもしれない。英語教育と道徳の両方を扱うからだ。論題には「と」は表現しなかったが、内容的に「〇と〇」という印象があるだろう。「と」、英語で言えば“and”になるが、論文等のタイトルで並列関係を表現する「と」は2つの関係性や2つの事項からどのような考察をするのかをはっきりと示すことが求められる。そこでよく「～の比較」や「～の比較研究」といった表現が後に付くことが多いが、これも具体的に何を「比較する」かが不明瞭となるため、副題をつけたり、論文の「はじめに」や目次等で明確化することが求められる。本稿ではその意味で曖昧さを避けるよう心掛けた。ポイントは「道徳」ではなく「道徳的観点」としたところだ。これは様々な問題を含んでいるためだ。英語も時代と共に変化していることは言うまでもないことだ。英語教育を進める上で、「道徳教育」との連携あるいは、その他、どのようなことに着目すべきかを考察したい。

## 1 「道徳教育」とは

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(2015)には参考として「各教科等における道徳教育」として総則の配慮事項が掲載されている。

### 外国語科

外国語を通じて、我が国及び外国の言語や文化に対する理解を深めることは、世界の中の日本人の自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に貢献することにつながるものである。(文部科学省 a 10)

「総合的な学習の時間」や「特別活動」ではその記載も教科に比べると内容も人間関係的なものへの配慮が記載されているのに対して、教科については「国語科」と「社会科」が比較的長いがその他の教科は3～5行程度である。

外国語科として書かれている配慮はきわめて曖昧である。「国際的視野」があまりにも具体性に欠ける。そこでひとつには国際機関から発信されているものが一つの指針となるかもしれない。

2年後の文部科学省『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』（2017）では総則の配慮事項については、記述内容がもう少し増えている。

外国語科においては、第1の目標（3）として「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」と示している。「外国語の背景にある文化に対する理解を深め」ることは、世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながるものである。また、「聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮」することは、外国語の学習を通して、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和、国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てることにつながる。（文部科学省 b 11）

記述内容は増えたものの、文章の解説部分のみが増えたものの、具体的な記述はない。

文部科学省はどこに注目しているのだろうか。学習指導要領の改訂は学校種毎に段階を追って行われる。高等学校では「道徳科」は配置されていないが、文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』（2018）では、生産年齢人口の現象、グローバル化の進展、

急激に進む少子高齢化などに触れたあと、次のように述べている。

こうした変化の一つとして、進化した人工知能（AI）が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されるIoTが広がったりするなど、Society5.0とも呼ばれる新たな時代の到来が、社会や生活を大きく変えていくとの予測もなされている。また、情報化やグローバル化が進展する社会においては、多様な事象が複雑さを増し、変化の先行きを見通すことが一層難しくなっている。

（文部科学省 c 1）

Society5.0とは2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」（SDGs：Sustainable Development Goals）の背景には、日本が抱える少子高齢社会、生産労働人口の減少、AIの社会進出などもあり、内閣府が科学技術基本計画の第5期（2016年度～2020年度）のキャッチフレーズとしたのが「Society5.0」である。Society5.0を整理すれば以下の通りとなる。

- Society1.0 狩猟社会
- Society2.0 農耕社会
- Society3.0 工業社会
- Society4.0 情報社会
- Society5.0 超スマート社会

Society5.0ではIoTが当たり前となり、そのキーワードは、ドローン、AI家電、医療・介護、スマートワーク、スマート経営、自動走行となる。

内閣府の「Society5.0」では次のような文章が寄せられている。

政府は、少子高齢化に対応し、持続的な経済成長を成し遂げるため、人づくり革命と生産性革命を車の両輪として取り組んでいます。

このうち、生産性革命を実現し、人工知能、ロボット、IoTなど、生産性を劇的に押し上げるイノベーションを実現するのが「Society5.0」の社会です。(内閣府)

SDGsを進めるために、また、日本の少子高齢社会に対応するために、労働力不足を解消するために日本ではSociety5.0が提唱されていると言ってよいだろう。SDGsでは169のターゲットが設定されているが、その中でも「10 人や国の不平等をなそう」「16 平和と公正をすべての人に」「17 パートナースhipで目標を達成しよう」は「道徳」を範疇を越え、大きなテーマになっている。

## 2 「英語」で取り上げるべき「道徳的観点」とは

「道徳」とすると、かなり範囲が狭くなるが、「道徳的観点」とすれば、その範囲は広がる。

「英語」で取り上げるべき「道徳」あるいは「道徳的観点」とは何であろうか。学習指導要領によれば、「道徳」での内容にはおもに次の4つであるという。

- A 主として自分自身に関すること
- B 主として人との関わりに関すること
- C 主として集団や社会との関わりに関すること
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること(文部科学省b 5-6)

この中で「英語」ではCの項目が該当し、その中で「国際理解、国際貢献」(文部科学省b 6)が注目すべき内容である。現在は2020東京オリンピック・パラリンピックの標語にも“diversity”が入っているが、「多様な文化」(文部科学省b 6)を認める流れがすでに出来上がって

いるのが現状である。

では、具体的に取り上げるべきものとは何であろうか。最も身近なものとして次の3点を取り上げておきたい。

- 1 Family name と Personal name
- 2 ジェンダーに関するもの
- 3 人権にかかわるもの

### (1) Family name と Personal name

文部科学省初等中等教育局『各中・高等学校の外国語教育における『「リスト」の形での CAN-DO 学習到達目標設定のための手引き』(2013)でも自己紹介について次のような記述がある。

[言語の使用場面の例]

- a. 特有の表現がよく使われる場面：
- ・自己紹介(中) ・手紙や電子メールでのやりとり(高) など
- (文部科学省初等中等教育局 7)

英語圏では氏名は「Personal name +Family name」の語順となる。

ウィリアム・シェイクスピア	William Shakeseare
ハリー・ポッター	Harry Potter
ドナルド・トランプ	Donald Trump

では日本人の表記はどうなるだろうか。

日本語	英語 A	英語 B
野比のび太	Nobita Nobi	→ Nobi Nobita

佐々木隆	Takashi Sasaki	→	Sasaki Takashi
安倍晋三	Shinzo Abe	→	Abe Shinzo

日本人の場合には通常の語順とは反対で表現するように筆者が中学生の頃には指導を受けて来た。つまり英語 A の表現である。しかし、ここ数年、英語 B の表現、すなわち、日本語と同じ語順の表現も多くみられる。

安倍晋三	Shinzo Abe (The Guardian)(The New York Times) (Prime Minister' s Office of Japan) Abe Shinzo (Encyclopedia Britannica)
庵野秀明	Anno Hideaki (Napier 18)
新海誠	Makoto Shinkai (All Movie)
手塚治虫	Tezuka Osamu (Freedman 34)
錦織圭	Kei Nishikori (BBC Sport)
源頼朝	Minamoto Yoritomo (Huffman 38)
宮崎駿	Miyazaki Hayao (Freedman, 34)
村上隆	Murakami Takashi (Galbraith 182)
紫式部	Murasaki Shikibu (Huffman 29)
村山富市	Murayama Tomiichi (Huffman 124)
三島由紀夫	Mishima Yukio (Buckley 322)

すべての資料が日本語と同じ語順になっているわけではないが、こうしたものは日常的に目にする英語でも混在している。ここでは使用の規則を分析するものではない。World Englishes と同様に、重要なことは表現の正しさを求めること以上に、この場合には個人が特定できるかどうかが一番問題なのである。Miyazaki Hayao, Hayao Miyzaki とどちらで表現しようが、宮崎駿であることがわかれば何ら問題ないのではないだろうか。ではなぜこのように混在するのか？これには3つのことが考えられる。

- 1 英語にした場合の表現の統一性から **personal name, family name** の順で表記。
- 2 固有名詞は現地主義を優先し、その国での表現を優先する。この場合には日本人の場合には、日本人名の表記方法が優先される。
- 3 出版、報道等が行われる国の習慣に従って表現。

興味深いことは日本の首相官邸が **Shinzo Abe** としていることだ。だが、この前に **Prime Minister** があることも注意すべきかもしれない。上記2の現地主義の影響はかなり大きい。筆者が子どもの頃には世界一高い山は「エベレスト」という言い方であったが、現在ではマスコミ等も「チョモランマ」と表現している。インターネット上では次のような解説もある。

「チョモランマ」とは、チベットでの「エベレスト」の現地名で、「世界の母なる女神」を意味するチベット語です。

一方、ネパールでの「エベレスト」の現地名は「サガルマータ」で、「世界の頂上」を意味するネパール語です。

本来ジョージ・エベレスト氏は「全ての地形に現地での呼称を尊重したい」という方針でしたが、後任の測量局長官アンドリュー・ウォー氏が調査した結果、1865年当時は現地名を発見できなかったことから「エベレスト」と命名、これが英語圏を中心に定着しました。

近年では、現地名の「チョモランマ」や「サガルマータ」を尊重する一方で、ネパールから登ったか、チベットから登ったかで呼称を変更すると混乱を招くことから、「エベレスト」が用いられることも少なくありません。(違いは？1分で読める!! [違いは?])

中国人や韓国人の名前も「金」(キン→キム)、「王」(オウ→ワン)、「李」(リー→イ)、「全」(ゼン→チョン)との表記や言い方に変わっている。表

記は変えられても、正しい発音ができるかどうかはまた別の問題であるが。

## (2) ジェンダーに関するもの

ジェンダーに関する表現としての変化は比較的早く英語に反映されている。無性語 (gender neutral word) が使われる傾向にあることだ。特に社会での女性の進出なども大きな要因でもある。

司会者・委員長 chairman → chairperson  
警察官 policeman → police officer

かつては“stewardess”で表現されていたものも今や“cabin attendant”などで表現されている。ビジネスレターでは、初めての問い合わせなど、相手が分からない場合には書き出しを Gentlemenではなく Dear Sir or Madam と書くのが無難だとも言われる。

インターネット上では Suzannan Weiss “Gender-Neutral Terms We Should All Be Using” (July 6, 2018)では次のような指摘もなされている。

**Mx. is an honorific, like Ms., Mrs, or Mr. While one of second-wave feminism's accomplishments was to popularize Ms. so women didn't have to specify if they were married or not, one of third-wave feminism's has been to popularize Mx. In 2015, it was even added to Dictionary.com. Some non-binary people use this honorific, but others can too if they simply prefer not to specify their gender. (Weiss)**

男性の場合には未婚であるか、既婚であるかに関係なく、Mr.を使用す



るものの、女性の場合には Miss と Mrs. で区別していた時もあったが、現在では男性と同じように未婚・既婚に関りなく、Ms. を用いるのも定着しているが、さらに男性・女性、さらに未婚・既婚といったジェンダーを全く特定しない Mx. という表現も使用されているという。

Dictionary com. には次のように定義されている。

a title of respect prefixed to a person's surname: unlike Mr., Mrs., or Ms., it does not indicate gender and may be used by a person with any or no specific gender identity.

Origin of Mx.

1975–80; M (as in Mr./Mrs./Ms.) + x (symbol for an unknown quantity, person, or thing) (Dictionary com.)

ここで再度、Suzannan Weiss “Gender-Neutral Terms We Should All Be Using” を見ておきたい。

The words "boyfriend" and "girlfriend" make it difficult for people to talk about their partners if they don't identify as men or women. In addition, they force LGBTQ people who may not feel comfortable coming out to disclose the gender of their partners. They also require people to make assumptions about others' partners if they don't yet know their gender. Saying "partner" or "significant other" helps us avoid these problems. (Weiss)

“LGBTQ” という表現があるが、よく見かけるのは “LGBT” である。これは “lesbian, gay, bisexual, transgender” のそれぞれの頭文字を取って出来た用語である。“Q” は “queer” 「少数派」の頭文字である。インターネット上での「コトバンク」には『朝日新聞』（2018-10-15 夕刊 2 社会）として次のような解説が掲載されている。

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー（生まれた性と異なる性で生きる人）、クエスチョニング（性自認や性的指向を定めない人）の頭文字をとっている。Qは性的少数者の総称を表す「クィア」という意味でも使われている。（朝日新聞）

日本では『広辞苑』（2018）によようやく、「LGBT」が掲載されたばかりだ。しかし、その「LGBT」の定義が誤っているとの指摘が相次いでいる。Morgan Lev Edward Holleb. *The A-Z of Gender and Sexuality* (2019)では“LGBT+, LGBTQ, LGBTQIAP”という項目がある。

Acronym which groups together everyone who is not both cisgender and heterosexual.

The long-form acronym stands for: Lesbian, Gay, Bisexual, Bigender, Transgender, Transsexual, Queer, Questioning, Intersex, Asexual, Agender, Aromantic, and Pansexual. It also implicitly includes: other non-monosexualities (e.g., omnisexuality); genders which fall under the transgender and non-binary umbrella; and sexualities which are on the asexual spectrum. All of these groups have a legitimate claim to queerness, should they choose to self-describe with that label. Other sources offer variations on the acronym's expanded definition, usually omitting the less commonly known labels. (Holleb 166)

では手元にある辞典で「MS」「MX」／「LGBT」「LGBTQ」について調べてみよう。時系列で列挙する。

Eugene Ehrlich, Stuart Berg Flexner, Gorton Carruth, Joyce M. Hawkins (1980). *Oxford American Dictionary*. Avon Books.

Ms. the title prefixed to a woman's name without distinction of married or unmarried status.(p.583.)

Mx. 掲載なし。

LGTB 掲載なし。

LGTBQ 掲載なし。

William T. McLeod, managing editor (1986). *The Collins Paperback English Dictionary*. Collins.

Ms. a title subtitled for Mrs. or Miss to avoid making a distinction between married and unmarried women. (p.554)

Mx. 掲載なし。

LGBT 掲載なし。

LGBTQ 掲載なし。

小学館ランダムハウス英和辞典第二版編集委員会 (1994). 『小学館ランダムハウス英和大辞典』、小学館、第2版。

Ms. 1 ((未婚・既婚を問わず、女性に対する敬称に用いて))…様、…さん。→1973年以降、国連でも公式に採用。

**語法** Ms.は未婚・既婚を区別しないときに女性の姓の前につける敬称として1950年代に用いられ始め、1970年初期になると、男性のMr.に対応するものとして女性運動で採用され奨励されるようになった。それ以来Ms.は特に実業界や知的職業においてますます広く用いられてきた。女性のなかには伝統的なMiss(未婚・既婚の別が不明な場合には今でも標準的な用法)、またはMrs.を好む人もいる。新聞では、引用以外にはMs.を認めないことがあるが、女性の子実が分かれば3つの敬称(Ms., Miss, Mrs.)のどれでも用いることがる。最近はだんだん3つのどれも避けて、最初に言及するときにはフルネームを用い(Janet Green)、

以後の言及では男性と同様に姓だけ (Green) を用いるようになっている。Ms., Miss, Mrts.の3敬称とも依然として使われているので、当人の好み、またはその名前を用いる組織や出版物の慣行に従うようになっている。(p.1771)

Mx. (ジェンダー関係に関する) 掲載なし。

LGBT 掲載なし。

LGBTQ 掲載なし。

竹林滋編代表 (2002). 『研究社新英和辞典』、研究社、第6版。

Ms. [未婚・既婚の区別をせず女性の姓または姓名の前につけて使う敬称として]…さん; ミズ (1949) ((混成))←MISS+MRS. (p.1619)

Mx. (ジェンダー関係に関する) 掲載なし。

LGBT 掲載なし。

LGBTQ 掲載なし。

Catherine Soane and Angus Stevenson, editors (2004). *Concise Oxford English Dictionary*. Eleventh. Oxford University Press.

Ms a title used before the surname or full name of a woman regardless of her marital status (a neutral alternative to Mrs or Miss). (p.935)

Mx. (ジェンダー関係に関する) 掲載なし。

LGBT 掲載なし。

LGBTQ 掲載なし。

小西友七・南出康世編 (2007). 『ジーニアス英和辞典』、大修館書店、第4版。

Ms. [女性の姓・姓名の前で] …さん、様 (◆ (1) 既婚・未婚

を区別せずに用いる。1973年以降国連でも正式に採用。(2)  
ピリオドを省くのは((主に英))。(p.1274)

Mx. (ジェンダー関係に関する) 掲載なし。

LGBT 掲載なし。

LGBTQ 掲載なし。

井上永幸・赤野一郎編(2007).『ウィズダム英和辞典』、三省堂、第2版。

Ms. 語法 既婚・未婚にかかわらず用いられる。本人の希望のほか、文章上、既婚・未婚の区別を避けたり、わからない場合に使用される。((英語))よりも((米))で好まれる。(p.1196)

Mx. 記載なし。

LGBT 掲載なし。

LGBTQ 掲載なし。

(2007).『ロングマン英和辞典』、桐原書店。

Ms. (女性の敬称として) …さん (Mrs または Miss という敬称を好まない相手、既婚・未婚が不明な相手に対して用いる)  
(pp.1070-1071)

Mx. 記載なし。

LGBT 掲載なし。

LGBTQ 掲載なし。

竹林滋・小島義郎・東信行・赤須薫編(2008).『ライトハウス英和辞典』、研究社、第5版。

Ms. 語法 Ms.(Mary)Smith のように成人女性の姓か姓名の前につける。Ms.Mary のように名だけの前につけることはない。  
Miss と Mrs.とを合体したもので、女性が結婚しているかどうか不明のときや既婚・未婚の区別をしたくないときに用いる傾

向が一般化している;((英))ではピリオドなしで用いることが多い:*Ms. White* ホワイトさん [先生] /*Ms.Margaret Simth* マーガレット スミスさん。(p.915)

Mx. 記載なし。

LGBT 掲載なし。

LGBTQ 掲載なし。

投野由紀夫編 (2014). 『エースクラウン英和辞典』、三省堂、第2版。

Ms. …さん、…先生 ((成人した) 女性への敬称)

参考 女性だけ Miss, Mrs. で未婚・既婚の区別をつけるのは性別差別だとする考えかたから生まれた語。多くの女性が Ms. を使うほうを好む。(p.897)

Mx. 記載なし。

LGBT 掲載なし。

LGBTQ 掲載なし。

2014年までの紙媒体の英語辞典を見て来たが、Ms.だけが掲載されていた。そのMs.も1973年以降国連で採用されたこともあり、1980年代以降の今回調査した英語辞典ではすべて掲載されていた。インターネット上のものについては、最初に紹介した Suzannan Weiss, Suzannan “Gender-Neutral Terms We Should All Be Using”(2018)によれば、Mxについては2015年がひとつの基点になりそうだ。“Indiana Transgender Network”では“Gender Neutral ‘Mx.’ Honorific added to Oxford English Dictionary” (May 11, 2015)では次のような記述がある。

FOR the first time in decades there is a new title to join Mr, Mrs, Miss and Ms: the gender-neutral “Mx” as an honorific for transgender people and anyone else who does not identify with a

particular gender.

Government departments, councils, high street banks, some universities, Royal Mail and driving licences all now accept Mx.

Over the past two years the title has been quietly added to official forms and databases and is now being considered for inclusion in the next edition of the Oxford English Dictionary (OED).

Jonathan Dent, assistant editor on the OED, said it was the first addition to the accepted stable of honorifics in recent history and demonstrated how the English language is evolving to accommodate an ever-changing society.

He said it is an example of how the English language adapts to people's needs, "with people using language in ways that suit them rather than letting language dictate identity to them". (Indiana Transgender Network)

また、“International Business Times”の Barbara Herman “Mr., Mrs. or Mx.? Oxford English Dictionary Adopts Gender Neutral Honorific” (05.05.2015)でも次のように掲載されている。

The Oxford English Dictionary announced on Sunday it is going to include the gender-neutral honorific "Mx." -- pronounced "mix" -- to represent transgender people and people who don't want to be identified by gender, reports the Sunday Times of London.

Although the idea of replacing the traditional honorifics "Mr.," "Mrs." and "Miss," and the later "Ms.," with the gender-neutral "Mx." seems a wholly contemporary development, OED assistant editor Jonathan Dent in the announcement Sunday said the first recorded use of Mx. was discovered in a 1977 issue of "Single Parent," an American magazine.

“The early proponents of the term seem to have had gender politics as their central concern [and] saw the title as one which could sidestep the perceived sexism of the traditional ‘Mr.,’ ‘Mrs.’ and ‘Miss,’” Dent told the Sunday Times.

Perhaps more surprising than the idea that single parents were proponents of an honorific associated with gender activists like trans performer Mx. Justin V. Bond, who's been using "Mx." for years, is the fact that U.K. banks and government agencies are already giving customers the "Mx." option.

'Mx' Already Common In The UK

Mx Activist released proof of such usage in Britain, including documents from the Royal Bank of Scotland, the Department for Work and Pensions, the Royal Mail Group and the Driver and Vehicle Licensing Agency, which offer their customers a gender-neutral "Mx" option. (In British usage, honorifics are not followed by a period.)(Herman)

中高生はもちろん、大学生が図書館等で通常手に取って調べられる紙媒体の英語辞典には反映されていない状態である。しかし、多様性を考えるとなれば、検定教科書に載っていないから取り扱う必要なしとするのも、時代の流れからすれば、無視することもできないだろう。

性別に関して海外のパスポート等における性別欄を見てみるとさらに様相は多様化していた。

ネパール・カトマンズで、国内で初めて発給されたトランスジェンダー用のパスポート（2015年8月10日撮影）。(c)AFP/Prakash MATHEMA

【8月11日 AFP】ネパール政府は10日、トランスジェンダー（性別越境者）のためのパスポート（旅券）を初めて発給した。人権団体



は画期的な措置として称賛している。

このパスポートの初の受領者となったのは、人権活動家のモニカ・シャヒ (Monica Shahi) さん。パスポートには、「男性」「女性」ではなく、「その他 (other)」を表す「O」の文字が記されている。

ネパールは 2013 年 1 月に、市民権証書を申請するトランスジェンダーの人々のために、第 3 の性というカテゴリーを採用した。その 5 か月後、ネパール最高裁は政府に対し、パスポートの性別欄の選択肢も改正するよう命じていた。(Mathema)

カナダではこのような表記方法については 2017 年 8 月 31 日付で “X” を認める法令が施行されました。インターネット上で「【LGBT に優しいカナダ】パスポートに 3 つ目の性別「X」が登場！」との記事が掲載されている。

男性は「M (Male)」、女性は「F (Female)」でしたが、この度新たに「X (Unspecified)」が登場。(トロント現地情報)

リサーチするとオーストラリア、デンマーク、ドイツ、マルタ、ニュージーランド、パキスタンでも、現在「X」の選択肢があるのだ。世界で初めてパスポートに第 3 の性別の表記の記載を認めたのは 2011 のオーストリアである。インターネット上の ABC NEWS では次のように報道している。

Passport gender choice made easier

AM

Sarah Dingle

Updated 16 Sep 2011, 1:25pm Fri 16 Sep 2011, 1:25pm

People will be able to choose what gender they want to be listed as on new Australian passports, even if they have not undergone a sex

change.

In the past, Australians could only change their gender on their passports if they had had a sex change operation or were travelling to get one.

Now the Department of Foreign Affairs and Trade (DFAT) has introduced new guidelines so that instead of surgery, all that is needed is a letter of support from a medical practitioner.

The changes mean Australians can identify their sex of choice and select Male, Female or X. The 'X' choice is available to intersex Australians. (ABC NEWS)

上記とは反対に男女についてはっきりしない場合には入国が難しい国もある。急速にこうした多様化の波が打ち寄せている。この問題は単純にジェンダーだけで片付ける問題ではなく、問題の広がりによっては家族制度にも大きな影響を及ぼし、生活文化全体が変化してしまう可能性もはらんでいるのである。

### (3) 身体障害者を表す表現

筆者は「教職課程の英語学に関する一考察」(2017)の「5 英語学を強く意識する時」の中で次のように指摘したことがある。

「身体障害者」に当たる英語についても時代により大きく変化している。最近では交通機関の座席付近に日英語で表記されることも多くなっている。当初は *physically handicapped person* として表現されていたが、現在では *physical disability*, *disabled person* と表現されることが多い。しかし、この表現でさえもすでに古くなっている。最近の高校英語の教科書では *challenged* という表現で「身体障害者」として採用しているものもある。本来であれば、*active challenged* とした

いところだが。現在では、active challenged, active challenger, physical challenged 等で表現している。残念ながら、日本の公共交通機関ではこうした表現を採用しているものを筆者はまだ目にしていない。(佐々木 a 15・16)

ちなみに日本語の「シルバーシート」は完全な和製英語で、海外では全く意味内容が伝わらない。単なる「銀色の座席」である。現在電車内で掲載されている掲示では“priority seat”で表現されている。

### 3 社会の流れと教育

筆者が中学生の頃、「北京」は“Peking”として習った。今から45年以上も前のことだ。現在では“Beijing”である。大学生の頃にFENのラジオ放送でこの“Beijing”という発音を聞き時、最初は全くわからなかったことを記憶している。このことについてインターネット上では次のような記事があった。

2014年8月7日木曜日

北京は Beijing か Peking か？

日本語では中国の首都・北京をペキンと読みますが、英語では Beijing としばしば表記されます。中国語でも北京はペイジンと呼ばれています。

しかし、ペキンは日本語だけで使うというわけではなく、Peking という英語表記は実際にあるし、北京大学は英語で Peking University と名乗っています。

その理由はこのページに簡潔にわかりやすく書かれています。

Why was the capital of China once called Peking but is now called Beijing?

Prior to 1958, the Chinese government used the Wade-Giles system

to transliterate Chinese characters into the Roman alphabet. After 1958 the government switched, and the rest of the world followed, to the pinyin system of transliteration so now we call the capital city Beijing (pinyin) instead of Peking (Wade-Giles).

どうして中国の首都はかつてペキンと呼ばれていたのに、今ではペイジンなのですか？

1958年以前、中国政府は中国語の文字をローマ字で書くときにウェード (Wade-Giles) 式を使っていました。1958年以降、中国政府はローマ字表記法をピンイン (pinyin) に切り替え、世界各国もそれに追随しました。そういうわけで、今では私たちは中国の首都をウェード式のペキン (Peking) ではなく、ピンインのペイジン (Beijing) と呼んでいます。

北京大学は政府の決定に安易に追従せず、頑なに伝統を守っているということですね。日本語では外国の都市名をできるだけ現地読みに近いカタカナで表記していますが、その法則に従うならばペイジンと書くべきなのかもしれません。しかし、一度日本語として定着してしまったものを変えるのは難しいということでしょう。(北京)

ちなみに 2019年10月8日現在の英語版の北京大学 HP をみると、“Beijing University”ではなく、“Peking University” (北京大学) となっているのだ。念のため北京を冠にした大学をいくつか調べてみると以下の通りであった。

北京交通大学	Beijing Jiaotong University
北京外国語大学	Beijing Foreign Studies University
北京語言大学	Beijing Language and Culture University
北京師範大学	Beijing Normal University

北京大学はある信念のもとに Beijing ではなく、Peking を使用している

ということだ。北京大学 HP の沿革でもこれについては触れていないため、インターネット検索で次の記事を紹介しておきたい。

Chinese transliteration Beijing or Peking?

And why are only the English nagged about this?

Johnson

Nov 11th 2010

by Bagehot

HERE is an odd thing. The Chinese government gets quite cross about English-speakers using the name Peking for their capital city, insisting on the more modern transliteration Beijing. It should be admitted that the old, Wade-Giles transliteration [see reader's comment and correction below] is pretty confusing to modern readers, with its Ps that sound more like Bs and so on. The modern pinyin system of transliteration is pretty close phonetically to the original Mandarin. When this reporter lived and worked in Beijing a decade ago, he assumed at first that the hostility was linked to historical resentments about British imperialism, the Opium Wars and what have you. But the French were also active as imperialist foreign devils in their day, and nobody seemed to bat an eyelid when they talk about Pékin. The Spanish are allowed to talk about Pekín and so it goes on.

China's most prestigious university, meanwhile, still uses its original English name, Peking University, when dealing with foreigners, though it is Beijing Daxue (literally, Beijing University) in modern Mandarin. Within China, to add to the confusion, it is universally known by the truncated name BeiDa. (Bagehot)

地名ではなく、もはや固有名詞として捉えることがよいのだろう。

時事に関する用語や科学が発達して出来た言葉は途中から新語として登場することになる。「難民」は“boat people”で登場した。当初はベトナムから非合法的に小さな小舟で脱出して来た人を指してこうした表現が生まれた。その後、は中国・福建省から非合法的に小さな小舟で脱出して来た人々の意味に変わってきた。現在ではこうした国名や地域名がなく、単なる小舟で脱出して来た人々を指す用語となっているようだ。インターネット辞典の「weblio 英和辞典」では次のように掲載されている。

boat people

アクセント bóat pèople

名詞【集合的に; 複数扱い】ボートピープル 《小舟で脱出する漂流難民》(weblio)

時代と共に考え方も変わるため単語の意味変遷を捉えることは多様性を意識する上では重要な確認作業である。

## エピローグ

教育は時代と共に変わる。道徳的観点もまた社会の在り様により変わる。自分の国だけの在り様だけでなく、国際社会の変化とともに変化するのが教育である。

教育基本法にも前文や条文に「世界の平和と人類の福祉の向上に貢献」「公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成」「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う」「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画」などの文言が並ぶ。

筆者が学生の頃は“gay”は「楽しい、愉快的」が第1義の意味とし

て辞書には掲載されていたが現在ではどうであろうか。現在の学生にとっては「(男性の) 同性愛者」として認識していることだろう。アメリカの小学校の校歌に「楽しい学校」という表現に“gay”が使用されていたことから、校歌の歌詞が変更されたといったニュースはもうかなり前のことであったと記憶している。『ちびくろサンボ』(*The Story of Little Black Sambo*) も今では人種差別の童話として取り扱われている(上石 2-18)。「アメリカ・インディアン」についてもその取扱いは簡単ではないのだ(佐々木 b 1-26)。」現在の学生に“Twitter (twitter)”の意味を問えば「小鳥のさえずり」と答える学生はほとんどく、「インターネット上で短文(140字内の文)を発信できるサービス」と答える学生がほとんどだろう。

英語教員は何をどこまで生徒や学生に教えるべきなのか。特に中学・高等学校の場合には学習指導要領がある。もちろん、これを越えて教えることについて禁止されているわけではない。しかしながら、中学生・高校生が通常使用する英和辞典等に掲載されていないとなれば、これもまた難しい状態となろう。一方で最近では海外への修学旅行や短期留学する機会も増えている。ビサの申請や様々な書類の記載では留学先の国の書式となる。こうなると性別などの記載方法も異なる国も出てくる。教育内容がいつも最先端であるわけではない。また、教員にも把握できないこともある。

今日本が求められている多様性は、「何が多様性なのか」という根本的な在り様を捉える姿勢が問われているのではないだろうか。

## 引証資料

上石実加子(2019)。「海を渡ったちびくろサンボ：絵本からみる国際理解」、『日欧比較文化研究』、第23号、日欧比較文化研究会。

「朝日新聞」(2018)。<https://kotobank.jp/word/LGBTQ-1829264>、2019年10月2日アクセス。

「違いは？1分で読める!! [違いは? ]」、<https://lowch.com/archives/11876>. access on 2019.0930.

佐々木隆 a (2017). 「教職課程の英語学に関する一考察」、『武蔵野教育研究』、第3巻第5号、武蔵野教育研究会。

佐々木隆 b (2018). 「アメリカの源流：American Indian はどう扱われて来たか—中学校・高等学校から大学へ」、『新教育課程研究』、第5号、武蔵野教育研究会。

北京大学「北京大学 HP」、<https://www.pku.edu.cn/>、2019年10月8日アクセス。

内閣府「Society5.0」、<https://www.gov-online.go.jp/cam/s5/>、2019年8月10日アクセス。

無署名(2014). 「北京は Beijing か Peking か?」、<https://eigoandenglish.blogspot.com/2014/08/beijingpeking.html>、2019年10月8日アクセス。

無署名 (2017) . 「【LGBTに優しいカナダ】パスポートに3つ目の性別「X」が登場!」、<https://lifetoronto.jp/2017/10/knowledge/21860.html>、2019年10月9日アクセス。

文部科学省 a. (2015) . 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』、[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/doutoku/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/index.htm)、2019年9月28日アクセス。

文部科学省 b.(2017). 『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』、文部科学省。

文部科学省 c.(2018). 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』、文部科学省。

文部科学省初等中等教育局(2013). 『各中・高等学校の外国語教育における『「リスト」の形での CAN・DO 学習到達目標設定のための手引き』、文部科学省初等中等教育局、[www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/\\_icsFiles/afieldfile/2013/05/08/1332306\\_4.pdf#search=%27%E5%90%84%E4%B8%AD%E3%83%BB%E9%AB%98%E7%A](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2013/05/08/1332306_4.pdf#search=%27%E5%90%84%E4%B8%AD%E3%83%BB%E9%AB%98%E7%A)



D%89%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E3%81%AE%E5%A4%96%E5%9B%BD%E8%AA%9E%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%AB、  
2019年9月29日アクセス。

Mathema (2015). 「ネパール・カトマンズで、国内で初めて発給された  
トランスジェンダー用のパスポート」、[https://www.afpbb.com/  
articles/-/3057046?pid=16296356](https://www.afpbb.com/articles/-/3057046?pid=16296356)、2019年10月9日アクセス。

weblio 英和辞典 “boat people”、[https://ejje.weblio.jp/  
content/boat+people](https://ejje.weblio.jp/content/boat+people)、2019年10月7日アクセス。

All Movie. “Makoto Shinkai” . [https://www.allmovie.com/  
artist/  
p399602](https://www.allmovie.com/artist/p399602). Access on 2019.09.30.

Bagehot (2010). “Chinese transliteration Beijing or Peking?  
And why are only the English nagged about this?” .  
<https://www.economist.com/johnson/2010/11/11/beijing-or-peking>.  
access on 2019.10.09

BBC Sport (2014). “ATP World Tour Finals: Kei Nishikori v Ferrer” .  
<https://www.bbc.com/sport/live/tennis/29441880>. access on 2019.  
09.30.

Buckley, Sandra, editor (2009). *Encyclopedia of Contemporary  
Japanese Culture*. Routledge.

Dictionary com. <https://www.dictionary.com/browse/mx>. access on  
2019.10.01.

Dingle (2011). “Passport gender choice made easier”, [https://www.abc.  
net.au/news/2011-09-15/passport-gender-choice-made-easier/28999  
28](https://www.abc.net.au/news/2011-09-15/passport-gender-choice-made-easier/2899928). access on 2019.10.09.

Encyclopedia Britannica (2019). “Abe Shinzo” . [https://www.  
britannica.com/biography/Abe-Shinzo](https://www.britannica.com/biography/Abe-Shinzo). access on 2019.0930.

Freedman, Alisa (2017) . “*Death Note*, student crimes, and the power  
of univiersities in the global spread of manga” . Mark McLelland.  
*The End of Cool Japan: Ethical, legal, and cultural challenges to*

- Japanese popular culture*. Routledge.
- Galbraith, Patrick W. (2009). *The Otaku Encyclopedia: An insider's guide to the subculture of Cool Japan*. Kodansha International.
- Guardian, The (2019). "Shinzo Abe promotes rising star Koizumi in cabinet reshuffle" . <https://www.theguardian.com/world/2019/sep/11/shinzo-abe-promotes-rising-star-shinjiro-koizumi-in-cabinet-reshuffle>. access on 2019.09.30.
- Herman, Barbara (2015). "Mr., Mrs. or Mx.? Oxford English Dictionary Adopts Gender Neutral Honorific" . <https://www.ibtimes.com/mr-mrs-or-mx-oxford-english-dictionary-adopts-gender-neutral-honorific-1907977>. access on 2019.10.05.
- Holleb, Morgan Lev Edward Holleb (2019). *The A-Z of Gender and Sexuality*. Jessica Kingsley Publishers..
- Huffman, James L. (2010). *Japan in World History*. Oxford University Press.
- Indiana Transgender Network (2015). "Gender Neutral 'Mx.' Honorific added to Oxford English Dictionary" . <http://indianatransgendernetwork.com/news/gender-neutral-mx-honorific-added-to-oxford-english-dictionary/>. access on 2019.10.04.
- Napier, Susan (2001). *Anime from Akira to Princess Mononoke: Experienceing Contemporary Japanese Animation*. Palgrave.
- New York Times, The. (2019). "Trump Races for Trade Deals With Japan and India as China Fight Persists" . [https://www.nytimes.com/2019/09/17/us/politics/trump-japan-india-trade.html?rref=collection%2Ftimestopic%2FAbe%2C%20Shinzo%20&action=click&contentCollection=timestopics&region=stream&module=stream\\_unit&version=latest&contentPlacement=5&pgtype=collection](https://www.nytimes.com/2019/09/17/us/politics/trump-japan-india-trade.html?rref=collection%2Ftimestopic%2FAbe%2C%20Shinzo%20&action=click&contentCollection=timestopics&region=stream&module=stream_unit&version=latest&contentPlacement=5&pgtype=collection). access on 2019.09.30.
- Prime Minister's Office of Japan (2019) . "The Prime Minister in

Action” . [http://japan.kantei.go.jp/98\\_abe/actions/index.html](http://japan.kantei.go.jp/98_abe/actions/index.html).  
access on 2019.09.30.

Weiss, Suzannan (2018). “Gender-Neutral Terms We Should All Be Using”. <https://www.bustle.com/p/7-gender-neutral-terms-we-should-all-be-using-9565996>. access on 2019.10.01

※今回のリサーチではジェンダーに関わる内容のため、ジェンダー論を研究対象とする勤務先の武蔵野学院大学・和田賢治准教授に意見を求めたところ、海外でのパスポート等の申請欄における「性別」欄について貴重な情報を得たことを紙面を借りて御礼申し上げたい。

**【キーワード】** 英語教育、道徳的観点、英語表現、ジェンダー、差別用語